

令和 3 年度第 1 回
北九州市上下水道事業検討会

北九州市上下水道事業
中期経営計画 2025 の
進捗管理
(令和 3 年度予算)

～ 目 次 ～

1	令和3年度 上下水道局経営方針	1ページ
2	令和3年度 上下水道局予算 主要事業	1ページ
	(1) 上下水道施設の強靱化	2ページ
	(2) 環境負荷の低減	4ページ
	(3) 国内外への貢献	4ページ
	中期経営計画実施事業設定目標一覧	5ページ
3	令和3年度 上下水道局予算 経営状況	15ページ
	(1) 水道事業	16ページ
	(2) 水道用水供給事業	17ページ
	(3) 工業用水道事業	18ページ
	(4) 下水道事業	19ページ

1 令和3年度 上下水道局 経営方針

「上下水道事業基本計画 2030 (R3~R12)」及び「上下水道事業中期経営計画 2025 (R3~R7)」に基づき、計画の初年度となる令和3年度は、上下水道施設の長寿命化や改築・更新、災害対策などに取り組むとともに、経営基盤の強化に努め、お客さまに信頼される上下水道を目指します。

また、本市の持つ高い上下水道技術を国内外で活用し、上下水道事業の発展的広域化や国際貢献の推進に取り組みます。

■重点的に取り組むもの

- 上下水道施設の強靱化
 - ・ 上下水道施設の長寿命化と改築・更新
 - ・ 豪雨対策の拡充・強化
 - ・ 震災対策の拡充・強化
 - ・ 危機管理体制の充実・強化
- 環境負荷の低減
- 国内外への貢献

2 令和3年度 上下水道局予算 主要事業

【体系図】

将来像	重点施策	実施事業
1	市民生活を支える強靱な上下水道をつくる	1-1 上下水道施設の長寿命化と改築・更新
		1-1-1 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新
		1-1-2 上下水道施設の規模の最適化
		1-2 豪雨対策の拡充・強化
		1-2-1 浸水被害の最小化
		1-2-2 上下水道施設の豪雨対策
		1-3 震災対策の拡充・強化
		1-3-1 上下水道施設の耐震化
		1-3-2 バックアップ機能の強化
		1-4 危機管理体制の充実・強化
		1-4-1 事故対応能力の向上
		1-4-2 民間事業者や他都市等との連携強化
		1-4-3 停電対策
		1-4-4 災害時における機能確保の推進
1-4-5 自助・共助の促進に向けたソフト施策の充実		

※青太字：主要事業

将来像	重点施策	実施事業		
2	いつでも安心して飲める安全な水を届ける	2-1 水源を守るための取組		
		2-1-1 水源林の保全		
		2-1-2 遠賀川の水質保全		
		2-2 取水から蛇口までの水質管理		
		2-2-1 安全な水対策		
		2-2-2 水源や浄水場を有効に活用した水の供給		
		2-2-3 直結式給水の普及促進や小規模貯水槽水道の管理指導		
		2-2-4 水質管理体制の充実		
		3 環境負荷の低減を図り、持続可能な社会に貢献する	3-1 環境負荷に配慮した事業の推進	3-1-1 合流式下水道の改善推進
				3-1-2 水質監視強化
				3-1-3 再生可能エネルギーの活用
				3-1-4 省エネルギーの推進
				3-1-5 資源の有効利用
				3-2 環境負荷低減に向けた研究の推進
3-2-1 ウォータープラザ北九州の有効活用				

将来像	重点施策	実施事業
4	国内外へ貢献していく	4-1 上下水道事業の発展的広域化
		4-1-1 多様な広域連携の推進
		4-1-2 外郭団体等との連携強化
		4-2 本市の技術力・経験を生かした国際貢献
		4-2-1 上下水道技術の国際協力
		4-2-2 海外水ビジネスの推進・支援
5	お客さまが求めるもののかたちにする	5-1 お客さまの理解と信頼を得る
		5-1-1 効果的な広報・広聴活動の推進
		5-1-2 小学生を対象とした上下水道に関する情報発信
		5-2 お客さま満足度の向上
		5-2-1 営業業務の見直し
		5-2-2 料金の支払や各種手続方法の拡充
		5-2-3 上下水道事業に関するアンケート調査の実施と施策への反映

※青太字：主要事業

将来像	重点施策	実施事業		
6	培われた高い技術を未来へつなぐ	6-1 職員の育成と活用		
		6-1-1 上下水道技術の継承・人材の育成		
		6-1-2 AI等を活用した技術の蓄積・継承の研究		
		6-1-3 上下水道技術の国際協力（再掲）		
		6-2 民間事業者等との連携推進		
		6-2-1 民間事業者等との連携推進		
		6-2-2 産学官連携による研究開発の推進		
		7	健全な経営を行う	7-1 効率的・計画的な事業運営
				7-1-1 上下水道施設の規模の最適化（再掲）
				7-1-2 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新（再掲）
7-1-3 民間事業者等との連携推進（再掲）				
7-1-4 AIやICTを活用した業務の効率化				
7-2 多様な収入の確保				
7-2-1 資産の有効活用				
7-2-2 水道・工業用水道利用促進対策				
7-2-3 多様な広域連携の推進（再掲）				
7-3 経営基盤強化に向けた検討				
7-3-1 料金体系のあり方の検討				
7-3-2 外部検討会の開催				

（1）上下水道施設の強靱化

長期的な観点から施設規模や機能の最適化を図りながら、更新時期を迎える上下水道施設の長寿命化、改築・更新に取り組むとともに、豪雨や地震といった災害に強い上下水道施設の整備などを進め、市民の生活を守ります。

○上下水道施設の長寿命化と改築・更新 13,055,614千円

上下水道事業を持続していくため、長期的な視点に立って効率的・計画的な上下水道施設の改築更新を進めます。

1-1-1	・配水管等の更新	5,848,320千円
	配水管更新（L=38.5km）、導送水管更新（L=1.8km）	
1-1-1	・浄水施設の更新	955,469千円
	堀越ポンプ場特高受変電設備更新電気計装工事 など	
1-1-1	・工業用水道施設の改築更新	756,497千円
	森下分岐～引野配水池送水管布設替工事 など	
1-1-1	・下水道施設の改築更新	4,287,000千円
	日明浄化センター中央監視装置改良 など	
1-1-2	・下水道施設の再編	640,000千円
	皇后崎・北湊処理区の再編 など	

1-2-1

○豪雨対策の拡充・強化

1,760,000千円

近年、局地化、集中化する豪雨から市民の生活を守るため、効果的に施設整備を進めていきます。

・昭和町雨水貯留管、天籟寺初音町幹線増補管 など

○震災対策の拡充・強化

8,022,646千円

大規模な地震が発生した場合においても、水道の安全で安定した給水、下水道の最低限の水処理機能を維持するため、防災・減災の観点から、施設の耐震化やバックアップ機能の強化などを図っていきます。

1-3-1

・浄水場・配水池の耐震化

305,714千円

皿山配水池の耐震化工事 など

1-3-1

・水道管路の耐震化《再掲》

5,848,320千円

配水管等の更新

1-3-2

・バックアップ機能の強化

258,612千円

井手浦系配水本管 L=100m など

1-3-1

・下水道管渠の耐震化

1,490,000千円

日明遮集幹線管渠更生、東二島北湊主要幹線管渠更生 など

1-3-1

・浄化センター、ポンプ場の耐震化

120,000千円

則松ポンプ場耐震化工事 など

○危機管理体制の充実・強化

307,449千円

気候変動の影響による自然災害の増加などさまざまな災害リスクに備え、緊急時においても、安定給水、安定処理ができる体制を確保していくとともに、市民の自助や地域による共助、他都市との連携強化など、ソフト施策を組み合わせた総合的な災害対策を強化していきます。

1-4-3

・停電対策

241,779千円

本城管理棟非常用発電設備更新 など

1-4-4

・災害時における機能確保の推進

65,670千円

応急給水施設整備工事 など

(2)環境負荷の低減

水環境の向上や、資源の有効活用などによる環境負荷低減を推進します。

3-1-1

○合流式下水道の改善推進

1,900,000千円

下水道法施行令で定められた期限（令和5年度末）までに放流先の汚濁負荷を分流式下水道並みに軽減し、良好な水環境をつくります。

- ・西本町地内、槻田地内
- ・皇后崎浄化センター水処理設備工事

3-1-4

○省エネルギーの推進

16,000千円

電気使用量及び二酸化炭素排出量の削減を図るため、ポンプ設備の適正化などにより省エネルギー対策を実施します。

3-1-5

○水道メーターの再資源化

3,650千円

本城リサイクルプラザを活用し、使用できなくなった水道メーターを分解・選別した上で、再資源化を図ります。

(3)国内外への貢献

北九州都市圏全体に相乗効果が期待できる発展的広域化や、SDGsの達成に寄与する国際貢献に取り組むことで、本市職員の技術力・実務能力の向上を図ります。

4-1-1

4-1-2

○水道事業の発展的広域化

1,121,819千円

宗像地区事務組合の水道業務包括受託について、引き続き水道施設の運転や維持管理、料金徴収などを実施します。また、連携中枢都市圏「北九州都市圏域」の水道事業者等を対象に、水道広域セミナーを開催するとともに、圏域全体に相乗効果が期待できる発展的な広域化に向けて、検討などを進めます。

- ・宗像地区水道施設維持管理等業務委託
- ・水道広域セミナー など

4-2-1

4-2-2

○海外事業の展開

170,142千円

SDGsの目標6「安全な水とトイレを世界中に」の達成へ寄与するため、上下水道の国際技術協力に取り組みます。さらに、協力関係で培った信頼や人的関係を基に、「北九州市海外水ビジネス推進協議会」との官民連携により、本市経済の活性化に繋げるための海外水ビジネスを推進していきます。

中期経営計画実施事業設定目標一覧

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標（中期経営計画 最終目標）			令和3年度	
				項目	目標	目標年度	単年度の目標	取組内容
上水道事業								
1 市民生活を支える強靱な上下水道をつくる								
1-1 上下水道施設の長寿命化と改築・更新								
1-1-1 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新								
			浄水施設の長寿命化	5箇所	R7	1箇所着手	本城浄水場ろ過池の長寿命化工事ほか実施	
			配水池の長寿命化	9箇所	R7	2箇所実施	高見配水池、皿山配水池長寿命化工事実施	
			マッピングシステムの機能強化	一元管理	R7	詳細検討 機能改良	6項目台帳一元化に向けての検討 工事管理機能・消火栓番号表示機能 追加	
			導送水管更新	6.7km	R7	1.8km更新	導水管更新 0.4km 送水管更新 1.4km	
			配水管更新	185km	R7	38.5km更新	配水管更新 38.5km	
			漏水率	6.0%以下	R7	漏水率 6.6%以下	漏水調査 4,000km 配水管更新 38.5km	
1-1-2 上下水道施設の規模の最適化								
			配水池の統廃合（尾倉）	尾倉配水池 廃止	R6	詳細設計	配水管整備（0.8km）にかかる 詳細設計	
			配水池の統廃合（黒川）	工事実施	R7	基本設計	配水管整備にかかる基本設計	
			水需要予測及び施設規模の検討	検討内容の中間 取りまとめ	R7	推進	水需要予測・施設規模の検討	
1-2 豪雨対策の拡充・強化								
1-2-2 上下水道施設の豪雨対策								
			豪雨対策施設整備	5箇所	R7	1箇所設計	山ノ神ポンプ場（1箇所）の 減災・防災工事の設計	
1-3 震災対策の拡充・強化								
1-3-1 上下水道施設の耐震化								
			浄水場耐震化率	59.2%	R7	〔 59.2% 工事完了の R10で77.5% 〕	R4実施設計に向けた関係機関 協議等	
			配水池の耐震化率	60.1%	R7	56.0%	皿山配水池耐震化工事 小熊野第一配水池耐震診断	
			危険箇所整備	2箇所 （累計10箇所）	R5	1箇所整備	葛葉配水池の災害対策 （設計・整備工事）	
			基幹管路の耐震適合率	51.6%	R7	48.7%	導水管の耐震化 0.4km 送水管の耐震化 1.4km 配水本管の耐震化 5.5km	
			広域避難地等に至る配水管の耐震化	9箇所 （累計26箇所）	R7	2箇所完了	配水管耐震化工事	

中期経営計画実施事業設定目標一覧

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標（中期経営計画 最終目標）			令和3年度		
				項目	目標	目標年度	単年度の目標	取組内容	
上水道事業				1-3-2 バックアップ機能の強化					
				八重洲分岐～城野分岐送水管2条化	完了	R7	0.2km整備	送水管整備工事	
				井手浦系配水本管のループ化	完了	R7	0.1km整備	配水本管整備	
				1-4 危機管理体制の充実・強化					
				1-4-1 事故対応能力の向上					
				模擬事故訓練（局全体）	1回	毎年	1回	模擬事故訓練実施	
				模擬事故訓練（水道部）	2回	毎年	2回	模擬事故訓練実施	
				危機管理研修（水道部）	3回	毎年	3回	危機管理研修実施	
				1-4-2 民間事業者や他都市等との連携強化					
				日本水道協会九州地方支部間での合同防災訓練	1回	毎年	1回	合同防災訓練実施（九州九都市参加）	
				日本水道協会九州地方支部間での情報伝達訓練	1回	毎年	1回	情報伝達訓練実施（九州九都市参加）	
				19大都市間での情報伝達訓練	1回	毎年	1回	情報伝達訓練実施（19大都市参加）	
				1-4-3 停電対策					
				非常用発電設備整備	7箇所（累計15箇所）	R7	3箇所	本城管理棟、本城第2ポンプ棟、伊左座取水場に非常用発電設備整備	
				1-4-4 災害時における機能確保の推進					
				応急給水施設整備	6箇所	R7	応急給水計画策定	運搬給水を基本とした現計画の見直し	
				非常用給水袋備蓄	5万枚	毎年	5万枚維持	使用実績に応じて必要数を購入し、5万枚を維持	
				給水車運転資格取得支援者数	25人	R7	5人	平成19年度運転免許制度改正に伴い、準中型免許取得支援	
				2 いつでも安心して飲める安全な水を届ける					
				2-1 水源を守るための取組					
				2-1-1 水源林の保全					
				市民参加人数	360人以上	毎年	360人以上	水源地域での植樹・育樹活動	

中期経営計画実施事業設定目標一覧

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標（中期経営計画 最終目標）			令和3年度			
				項目	目標	目標年度	単年度の目標	取組内容		
上水道事業				2-1-2 遠賀川の水質保全						
				遠賀川環境保全活動団体への支援	40団体以上	毎年	40団体以上	住民団体等による遠賀川流域の環境保全活動・普及啓発活動に対する支援		
				水質保全に向けた関連協議会への参加	2団体	毎年	2団体	遠賀川水系水環境保全・再生推進協議会 及び 遠賀川水系水道事業者連絡協議会 に参加		
				2-2 取水から蛇口までの水質管理						
				2-2-1 安全な水対策						
				水安全計画のレビュー（見直し）	5件	毎年	5件	各浄水場で1件		
				水処理の調査・研究	1件以上	毎年	1件以上	採水技術等の調査・研究 高機能粉末活性炭の導入・効果検証 等		
				2-2-2 水源や浄水場を有効に活用した水の供給						
				貯水状況に応じた東西応援	実施	毎年	実施	貯水量 多⇒東部：増、西部：減 貯水量 少⇒東部：減、西部：増		
				2-2-3 直結式給水の普及促進や小規模貯水槽水道の管理指導						
				小規模貯水槽水道の文書指導、直結式給水のPR	設置者全件（約3,000件）	毎年	設置者全件（約3,000件）	貯水槽水道管理水準向上のため、設置者（全件）へ文書指導実施		
				2-2-4 水質管理体制の充実						
				水道GLPの継続認定取得	継続取得	毎年	継続取得	本審査（4年ごとの更新手続き）		
				外部精度管理結果（良好判定）取得	2項目以上	毎年	2項目以上	良好判定取得		
				新たな検査項目の設定、監視	5項目	毎年	5項目	新たな検査項目を5項目設定		
				新たな情報コンテンツの発信	2件	R7	調査・検討	R4の新たな情報コンテンツ発信に向け、お客さまの関心事等について調査		
				3 環境負荷の低減を図り、持続可能な社会に貢献する						
				3-1 環境負荷に配慮した事業の推進						
				3-1-3 再生可能エネルギーの活用						
				再生可能エネルギー利用率	15%以上	毎年	15%以上	既設の水力発電設備、太陽光発電設備の活用		
二酸化炭素排出量削減（H17年度比）	2,200t	毎年	2,200t	H17年度比						
新たな再生可能エネルギーの調査・研究	実施	毎年	実施	脱炭素化の局内ワーキング開催						

中期経営計画実施事業設定目標一覧

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標（中期経営計画 最終目標）			令和3年度			
				項目	目標	目標年度	単年度の目標	取組内容		
上水道事業			3-1-4 省エネルギーの推進	電力使用量	過去5年平均以下	毎年	過去5年平均以下	設備の更新や能力の適正化を実施		
				二酸化炭素排出量削減（H17年度比）	3,000t/年	R7	2,600t/年	穴生浄水場送水ポンプ更新		
				新たな省エネルギー対策の調査・研究	実施	毎年	実施	脱炭素化の局内ワーキング開催		
				3-1-5 資源の有効利用	浄水汚泥の有効利用	100%	毎年	100%	汚泥の有効利用実施	
					廃棄水道メーターの再資源化	100%	毎年	100%	廃棄水道メーターの再資源化実施	
					7 健全な経営を行う					
				7-1 効率的・計画的な事業運営						
				7-1-1 上下水道施設の規模の最適化 1-1-2 再掲						
				7-1-2 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新 1-1-1 再掲						
				7-2 多様な収入の確保						
7-2-2 水道・工業用水道利用促進対策										
水道水の利用促進にかかるPRの実施				推進	毎年	営業活動実施	大口使用者特割制度の企業へのPR・安価な料金についてイベント等でのPRを実施			
工業用水道事業										
1 市民生活を支える強靱な上下水道をつくる										
1-1 上下水道施設の長寿命化と改築・更新										
1-1-1 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新										
浄水施設の長寿命化				3箇所	R7	管理棟等の長寿命化	本城管理棟、畑管理棟などの長寿命化工事実施（排泥池、沈殿池、濃縮槽はR5着手予定）			
工業用水道管路の更新				4.3km	R7	1.3km更新	工業用水道管路の更新			
1-3 震災対策の拡充・強化										
1-3-1 上下水道施設の耐震化										
浄水施設の耐震化							1-1-1 再掲			
工業用水道管路の更新							1-1-1 再掲			
7 健全な経営を行う										
7-1 効率的・計画的な事業運営										
7-1-2 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新							1-1-1 再掲			
7-1-4 AIやICTを活用した業務の効率化										
スマート検針システム運用				開始	R3	開始	本格運用開始			

中期経営計画実施事業設定目標一覧

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標（中期経営計画 最終目標）			令和3年度	
				項目	目標	目標年度	単年度の目標	取組内容
工業用水道事業			7-2 多様な収入の確保	7-2-2 水道・工業用水道利用促進対策				
				新規または増量件数	5件	R7	1件	PR活動の実施
下水道事業								
1 市民生活を支える強靱な上下水道をつくる								
1-1 上下水道施設の長寿命化と改築・更新								
1-1-1 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新								
			浄化センター・ポンプ場設備の計画的な改築・更新	120設備 (24設備/年)	R7	24設備	改築・更新（電気・機械設備機器）実施	
			下水道管渠の点検調査	550km (110km/年)	R7	110km	点検・調査（TVカメラ調査等）実施	
			下水道管渠の改築・更新	115km (23km/年)	R7	23km	改築・更新（管更生工事等）実施	
1-1-2 上下水道施設の規模の最適化								
			皇后崎・北湊処理区の再編	再編完了	R7	着手	下水道管の新設に係る実施設計	
			皇后崎浄化センターの再構築	3系統のうち 1系統の 集約化完了	R7	実施	改築・更新（第二処理場・最初沈殿池）	
			中川通ポンプ場の移転改築	工事着手	R7	実施	都市計画決定・事業計画変更	
			施設規模と機能の最適化	新町・日明処理区の検討着手	R7	R4以降		
1-2 豪雨対策の拡充・強化								
1-2-1 浸水被害の最小化								
			重点整備地区（16地区）のうち9地区の整備	9地区 整備完了	R7	実施	天籟寺地区の整備完了 昭和町地区の整備	
1-2-2 上下水道施設の豪雨対策								
			耐水化計画の策定	完了	R3	完了	浸水リスクの高い下水道施設を対象に策定	
			耐水化計画に基づく浸水防止設備の整備	実施	R7	R4以降		
1-3 震災対策の拡充・強化								
1-3-1 上下水道施設の耐震化								
			重要な15ポンプ場の耐震化率	73.3%	R7	20.0%	則松ポンプ場等の耐震補強工事実施	
			重要な管渠の耐震化率	50.7%	R7	47.8%	重要な管渠の耐震化（約7km）実施	

中期経営計画実施事業設定目標一覧

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標（中期経営計画 最終目標）			令和3年度			
				項目	目標	目標年度	単年度の目標	取組内容		
下水道事業				1-4 危機管理体制の充実・強化						
				1-4-1 事故対応能力の向上						
				模擬事故訓練（局全体）	1回	毎年	1回	模擬事故訓練実施		
				模擬事故訓練（下水道部）	1回	毎年	1回	模擬事故訓練実施		
				危機管理研修（下水道部）	1回	毎年	1回	危機管理研修実施		
				1-4-2 民間事業者や他都市等との連携強化						
				民間事業者との訓練	1回	毎年	1回	民間事業者との訓練実施		
				大都市間情報連絡訓練	1回	毎年	1回	大都市間情報連絡訓練実施		
				他都市との訓練	1回	毎年	1回	他都市との訓練実施		
				1-4-4 災害時における機能確保の推進						
				マンホールトイレの整備（累計）	11箇所 （1箇所/年）	R7	1箇所	中央公園の整備		
				1-4-5 自助・共助の促進に向けたソフト施策の充実						
				内水浸水想定区域図の拡充	完了	R7	実施	内水浸水想定区域図の拡充		
				出前講演による周知	2件	毎年	2件	浸水被害軽減のための出前講演実施		
				3 環境負荷の低減を図り、持続可能な社会に貢献する						
				3-1 環境負荷に配慮した事業の推進						
				3-1-1 合流式下水道の改善推進						
				合流改善達成率	100%	R5	84%	分流化（日明・皇后崎処理区）、簡易処理の高度化（日明・皇后崎浄化センター）		
3-1-2 水質監視強化										
浄化センターからの放流水質基準違反件数	0件	毎年	0件	放流水中の有害物質・生活環境項目等の実態把握						
工場等への立入検査	対象事業場等の半数 （200件超）	毎年	対象事業場等の半数	届出内容や水質管理状況について立入検査実施						
工場等への水質検査	対象事業場等について2回以上 （500件程度）	毎年	対象事業場等について2回以上	事業場排水の水質検査実施						
水質管理講習会実施	1回	毎年	1回	法規制の周知、下水道の適切な利用に関する啓発実施						
水質改善の調査・研究	1件	毎年	1件	疑似嫌気好気法運転におけるりん除去とPHAの挙動について						

中期経営計画実施事業設定目標一覧

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標（中期経営計画 最終目標）			令和3年度			
				項目	目標	目標年度	単年度の目標	取組内容		
下水道事業				3-1-3 再生可能エネルギーの活用						
				再生可能エネルギー利用率	3%以上	毎年	3%以上	消化ガス・太陽光・風力・小水力発電の活用継続		
				二酸化炭素排出量削減	535t	毎年	535t	消化ガス・太陽光・風力・小水力発電の活用による二酸化炭素排出量削減		
				新たな再生可能エネルギーの調査・研究	実施	毎年	実施	脱炭素化の局内ワーキング開催		
				3-1-4 省エネルギーの推進						
				ポンプ場照明設備のLED化（累計）	6箇所（1箇所/年）	R7	1箇所	大手町ポンプ場照明設備のLED化（累計2箇所）		
				二酸化炭素排出量削減	25t/年	R7	5t	ポンプ場照明設備のLED化による二酸化炭素排出量削減		
				新たな省エネルギー対策の調査・研究	実施	毎年	実施	脱炭素化の局内ワーキング開催		
				3-1-5 資源の有効利用						
				汚泥の有効利用率	100%	毎年	100%	セメント原料化・汚泥燃料化等実施		
				3-2 環境負荷低減に向けた研究の推進						
				3-2-1 ウォータープラザ北九州の有効活用						
				見学者の受入れ	200人以上	毎年	200人以上	海外研修生受入れなどによる技術力発信、情報交流・人的交流実施		
				7 健全な経営を行う						
				7-1 効率的・計画的な事業運営						
7-1-1 上下水道施設の規模の最適化					1-1-2	再掲				
7-1-2 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新					1-1-1	再掲				
共通事業										
4 国内外へ貢献していく										
4-1 上下水道事業の発展的広域化										
4-1-1 多様な広域連携の推進										
地区別勉強会、セミナー開催	1回以上	毎年	1回以上	近隣自治体との勉強会、セミナーの開催						
技術研修の受入れ	7回以上	毎年	7回以上	近隣自治体職員の研修受入れ						
4-1-2 外郭団体等との連携強化										
宗像地区事務組合水道事業包括業務の受託	継続	毎年	継続	宗像地区事務組合（宗像市・福津市）の水道事業包括業務の受託継続						
受託業務の拡大	3件	R7	1件	北九州ウォーターサービスとの近隣自治体のニーズの共有、受注拡大への検討及び年次計画の検討						

中期経営計画実施事業設定目標一覧

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標（中期経営計画 最終目標）			令和3年度		
				項目	目標	目標年度	単年度の目標	取組内容	
共通事業				4-2 本市の技術力・経験を生かした国際貢献					
				4-2-1 上下水道技術の国際協力					
				研修員受入れ	380人	毎年	380人	海外技術者育成に係る研修員受入れ	
				職員派遣	4人	毎年	4人	国際技術協力に係る職員派遣	
				4-2-2 海外水ビジネスの推進・支援					
				市が関与するビジネス案件数	6件	毎年	6件	国際技術協力や企業の海外水ビジネス支援	
				5 お客さまが求めるものをかたちにする					
				5-1 お客さまの理解と信頼を得る					
				5-1-1 効果的な広報・広聴活動の推進					
				広報活動によるお客さまの認知度	向上	R7	向上	広報紙の発行、副読本のWeb化等	
				広聴活動によるお客さまニーズの把握	推進	R7	推進	上下水道モニターでのWebアンケート実施等	
				5-1-2 小学生を対象とした上下水道に関する情報発信					
				出前授業	各区1校	毎年	各区1校	市内小学生を対象に体験型学習を実施	
				5-2 お客さま満足度の向上					
				5-2-1 営業業務の見直し					
				ICT技術等を活用した新たな施策の調査・研究	推進	R7	口座振替インターネット手続き	口座振替インターネット手続きについて、システム改修、運用開始 5-2-2 再掲	
				お客さまサービスの評価向上	推進	R7	お客さまサービス向上	お客さまサービス向上のために委託業務の管理・監督を行う。	
5-2-2 料金の支払や各種手続方法の拡充									
料金支払方法の多様化、拡充	実施	R7	検討	スマートフォン決済取扱機関の拡充、納付書払いの電子マネー利用等について検討する。					
口座振替インターネット手続き	開始	R3	開始	システム改修、運用開始					
5-2-3 上下水道事業に関するアンケート調査の実施と施策への反映									
アンケート調査を踏まえたお客さまニーズや課題への的確な対応	実施	R7	調査方法検討	アンケート調査の回数（頻度）・方法等について検討					

中期経営計画実施事業設定目標一覧

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標（中期経営計画 最終目標）			令和3年度	
				項目	目標	目標年度	単年度の目標	取組内容
共通事業	6 培われた高い技術を未来へつなぐ							
	6-1 職員の育成と活用							
	6-1-1 上下水道技術の継承・人材の育成							
		研修時間（延べ）	1万時間以上	毎年	1万時間以上	研修の実施		
		職員の資格保有	1人平均2つ以上	毎年	1人平均2つ以上	資格取得の支援		
		インターンシップ受入れ	3件以上	毎年	3件以上	インターンシップの受入れ		
	6-1-2 AI等を活用した技術の蓄積・継承の研究							
		AI及びICTなどを活用した技術の蓄積・継承の取組	2件以上	R7	1件以上	AIを活用した維持管理手法の研究		
	6-1-3 上下水技術の国際協力 4-2-1 再掲							
	6-2 民間事業者等との連携推進							
	6-2-1 民間事業者等との連携推進							
		業務の効率化・運営体制検討	推進	R7	推進	ボトルドウォーター在庫管理及び配送業務の委託化		
		北九州ウォーターサービスや民間活力の活用	推進	R7	推進	北九州ウォーターサービスや民間事業者の活用に係る検討		
	6-2-2 産学官連携による研究開発の推進							
		新技術等の調査研究	1件以上	毎年	1件以上	民間企業等による実証実験の支援		
	7 健全な経営を行う							
	7-1 効率的・計画的な事業運営							
	7-1-3 民間事業者等との連携推進 6-2-1 再掲							
7-1-4 AIやICTを活用した業務の効率化								
	効率化の取組件数	5件以上	R7	3件	下水道台帳のWeb公開、工水のスマート検針運用、Web会議の導入・オンライン研修の活用			
7-2 多様な収入の確保								
7-2-1 資産の有効活用								
	資産の利活用による収入	1億円以上	毎年	1億円以上	実施計画の策定 土地貸付等による収入の確保			
7-2-3 多様な広域連携の推進 4-1-1 再掲								

中期経営計画実施事業設定目標一覧

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標（中期経営計画 最終目標）			令和3年度	
				項目	目標	目標年度	単年度の目標	取組内容
共通事業			7-3 経営基盤強化に向けた検討	7-3-1 料金体系のあり方の検討				
				料金体系の検討	実施	R7	実施	直近の実績（R2決算）や予定（R4予算）を踏まえた検討実施
				料金に関するアンケート調査	実施	R7	R7実施	
				7-3-2 外部検討会の開催				
				開催	2回	毎年	2回	中期経営計画の進捗の報告等

3 令和3年度 上下水道局予算 経営状況

【上水道事業会計】

〈水道事業〉

- 収益的収支は、5.1億円の黒字
- 単年度資金収支は、12.5億円のマイナス
(累積資金剰余(基金含む) 53.8億円)
- 企業債残高は、612.9億円

〈水道用水供給事業〉

- 収益的収支は、0.9億円の黒字
- 単年度資金収支は、1.0億円の黒字を確保
(累積資金剰余 300万円)
- 企業債残高は、35.1億円

【工業用水道事業会計】

- 収益的収支は、3.1億円の黒字
- 単年度資金収支は、1.7億円のマイナス
(累積資金剰余 19.2億円)
- 企業債残高は、20.8億円

【下水道事業会計】

- 収益的収支は、4.6億円の黒字
- 単年度資金収支は、7.1億円のマイナス
(累積資金剰余 15.5億円)
- 企業債残高は、1,479.5億円

(単位：百万円)

	上水道事業		小計	工業用 水道事業	下水道 事業	合計
	水道事業	水道用水 供給事業				
収益的収入	19,883	905	20,788	2,001	27,495	50,284
料金(使用料)収入	15,351	788	16,140	1,724	14,802	32,665
収益的支出	19,377	816	20,193	1,694	27,034	48,921
収支差引	506	89	595	307	461	1,363
資本的収入	5,161	20	5,181	285	11,842	17,307
資本的支出	13,735	228	13,963	1,203	23,291	38,457
収支差引	▲ 8,574	▲ 208	▲ 8,782	▲ 918	▲ 11,449	▲ 21,149
補填財源	7,321	308	7,628	749	10,739	19,116
単年度資金収支	▲ 1,254	100	▲ 1,154	▲ 169	▲ 710	▲ 2,034
計画	▲ 623	99	▲ 525	▲ 182	▲ 338	▲ 1,044
計画比(予算-計画)	▲ 631	1	▲ 629	12	▲ 372	▲ 990
累積資金剰余	5,380	3	5,383	1,921	1,546	8,850
計画	6,009	2	6,011	1,909	3,218	11,139
計画比(予算-計画)	▲ 630	1	▲ 628	11	▲ 1,672	▲ 2,289
企業債残高	61,293	3,508	64,802	2,085	147,954	214,841
計画	59,555	3,509	63,064	1,841	146,432	211,338
計画比(予算-計画)	1,738	▲ 1	1,738	244	1,522	3,503

※水道事業の累積資金には、建設改良基金を含む

(1)水道事業

(単位：百万円)

		R2年度 当初予算 (A)	R3年度 計画 (B)	R3年度 当初予算 (C)	前年度比 (C-A)	計画比 (C-B)
収益的 収支	収益的収入 ①	20,274	20,145	19,883	▲ 391	▲ 262
	料金収入（原水除く）	15,645	15,450	15,351	▲ 293	▲ 99
	口径別納付金	451	451	420	▲ 31	▲ 31
	その他	4,179	4,244	4,112	▲ 66	▲ 131
	収益的支出 ②	19,672	19,354	19,377	▲ 294	24
	人件費	2,700	2,700	2,656	▲ 44	▲ 44
	維持管理費	3,191	3,221	3,173	▲ 18	▲ 48
	減価償却費等	8,198	8,135	8,282	84	147
	企業債利息	936	782	817	▲ 119	35
	その他	4,647	4,516	4,449	▲ 198	▲ 67
収支差引 ③=①-②		603	791	506	▲ 97	▲ 285
資本的 収支	資本的収入 ④	5,893	5,152	5,161	▲ 733	9
	企業債	4,983	3,350	3,343	▲ 1,640	▲ 7
	基金繰入金	0	1,000	1,000	1,000	0
	その他	910	802	818	▲ 93	16
	資本的支出 ⑤	13,513	13,761	13,735	223	▲ 26
	整備費	8,628	8,754	8,754	125	0
	企業債償還金	3,290	3,394	3,399	109	5
	その他	1,594	1,613	1,582	▲ 12	▲ 31
収支差引 ⑥=④-⑤		▲ 7,619	▲ 8,609	▲ 8,574	▲ 955	35
補填財源 ⑦		7,363	7,986	7,321	▲ 43	▲ 666
単年度資金収支 ⑧=⑥+⑦		▲ 256	▲ 623	▲ 1,254	▲ 998	▲ 631
累積資金剰余 ⑨		5,641	5,018	4,387	▲ 1,254	▲ 631
基金残高 ⑩		1,991	991	992	▲ 999	1
累積資金剰余（基金含む） ⑪=⑨+⑩		7,633	6,009	5,380	▲ 2,253	▲ 630
企業債残高		61,350	59,555	61,293	▲ 56	1,738

支出の不用額が発生することなどを見込んでいるため、R3計画の方がR3予算よりも増えています。

施設整備が単年度で終わらずに翌年度にわたって整備を行うこと、それに伴い財源とする企業債の発行も翌年度にすれ込むことを見込んでいるため、R3計画の方がR3予算よりも少なくなっています。

(2)水道用水供給事業

(単位：百万円)

		R2年度 当初予算 (A)	R3年度 計画 (B)	R3年度 当初予算 (C)	前年度比 (C-A)	計画比 (C-B)
収益的 収支	収益的収入 ①	837	905	905	68	▲ 1
	料金収入	719	788	788	70	0
	その他	118	117	116	▲ 2	▲ 1
	収益的支出 ②	827	821	816	▲ 12	▲ 6
	人件費	62	62	57	▲ 5	▲ 5
	維持管理費	208	208	198	▲ 10	▲ 10
	減価償却費等	320	312	311	▲ 9	▲ 1
	企業債利息	77	73	73	▲ 3	0
その他	161	166	177	16	11	
収支差引 ③=①-②		9	84	89	80	5
資本的 収支	資本的収入 ④	20	20	20	0	0
	資本的支出 ⑤	210	227	228	18	1
	整備費	14	28	28	14	0
	企業債償還金	176	179	180	3	1
	その他	20	20	20	0	0
収支差引 ⑥=④-⑤		▲ 190	▲ 207	▲ 208	▲ 18	▲ 1
補填財源 ⑦		238	306	308	70	2
単年度資金収支 ⑧=⑥+⑦		48	99	100	52	1
累積資金剰余 ⑨		▲ 97	2	3	100	1
企業債残高		3,688	3,509	3,508	▲ 180	▲ 1

(3)工業用水道事業

(単位：百万円)

		R2年度 当初予算 (A)	R3年度 計画 (B)	R3年度 当初予算 (C)	前年度比 (C-A)	計画比 (C-B)
収益的 収支	収益的収入 ①	2,001	1,976	2,001	1	25
	料金収入	1,723	1,694	1,724	1	29
	その他	278	282	278	0	▲ 4
	収益的支出 ②	1,771	1,732	1,694	▲ 77	▲ 38
	人件費	240	240	238	▲ 2	▲ 2
	維持管理費	344	358	353	9	▲ 4
	減価償却費等	666	672	671	5	▲ 1
	企業債利息	37	27	31	▲ 7	4
その他	484	435	402	▲ 83	▲ 34	
収支差引 ③=①-②		229	244	307	78	63
資本的 収支	資本的収入 ④	429	284	285	▲ 144	1
	企業債	256	120	120	▲ 136	0
	国庫補助金	46	37	38	▲ 8	1
	その他	128	127	127	0	0
	資本的支出 ⑤	996	1,171	1,203	208	33
	整備費	630	821	821	191	0
	企業債償還金	183	160	161	▲ 23	1
	その他	182	190	221	39	32
収支差引 ⑥=④-⑤		▲ 566	▲ 887	▲ 918	▲ 352	▲ 32
補填財源 ⑦		687	705	749	62	44
単年度資金収支 ⑧=⑥+⑦		121	▲ 182	▲ 169	▲ 290	12
累積資金剰余 ⑨		2,090	1,909	1,921	▲ 169	12
企業債残高		2,125	1,841	2,085	▲ 41	244

施設整備が単年度で終わらずに翌年度にわたって整備を行うこと、それに伴い財源とする企業債の発行も翌年度にずれ込むことを見込んでいるため、R3計画の方がR3予算よりも少なくなっています。

(4)下水道事業

(単位：百万円)

		R2年度 当初予算 (A)	R3年度 計画 (B)	R3年度 当初予算 (C)	前年度比 (C-A)	計画比 (C-B)
収益的 収支	収益的収入 ①	27,767	27,911	27,495	▲ 273	▲ 416
	下水道使用料収入	15,244	14,950	14,802	▲ 441	▲ 148
	一般会計繰入金	6,272	6,212	6,165	▲ 107	▲ 46
	その他	6,251	6,749	6,527	276	▲ 221
	収益的支出 ②	27,400	27,222	27,034	▲ 366	▲ 188
	人件費	1,102	1,102	1,086	▲ 16	▲ 16
	維持管理費	6,366	6,416	6,422	56	6
	減価償却費等	16,333	16,409	16,348	15	▲ 61
	企業債利息	2,104	1,778	1,778	▲ 325	0
	その他	1,495	1,517	1,399	▲ 95	▲ 117
収支差引 ③=①-②		368	689	461	93	▲ 228
資本的 収支	資本的収入 ④	12,969	13,533	11,842	▲ 1,127	▲ 1,691
	企業債	6,497	6,200	5,340	▲ 1,157	▲ 860
	国庫補助金	3,862	4,913	4,104	241	▲ 809
	その他	2,609	2,420	2,398	▲ 211	▲ 22
	資本的支出 ⑤	23,878	25,203	23,291	▲ 588	▲ 1,912
	整備費	10,689	12,180	10,460	▲ 229	▲ 1,720
	企業債償還金	9,364	9,063	9,063	▲ 300	0
	その他	3,825	3,960	3,767	▲ 58	▲ 192
収支差引 ⑥=④-⑤		▲ 10,910	▲ 11,670	▲ 11,449	▲ 539	221
補填財源 ⑦		11,033	11,333	10,739	▲ 294	▲ 594
単年度資金収支 ⑧=⑥+⑦		123	▲ 338	▲ 710	▲ 833	▲ 372
累積資金剰余 ⑨		2,256	3,218	1,546	▲ 710	▲ 1,672
企業債残高		151,677	146,432	147,954	▲ 3,723	1,522

支出の不用額が発生することなどを見込んでいるため、R3計画の方がR3予算よりも増えています。

R元年度の整備費の財源とするR2年度借入分企業債の収入が含まれているため、R3計画の方がR3予算よりも増えています。

施設整備が単年度で終わらずに翌年度にわたって整備を行うこと、それに伴い財源とする企業債の発行も翌年度にずれ込むことを見込んでいるため、R3計画の方がR3予算よりも少なくなっています。